

花言葉



ピンクッション・・・“どこでも成功”

スターチス・・・“変わらぬ心”

ひまわり・・・“あなたを見つめる”

松田院長からあなたへ 耳より情報

■膝の痛み（膝の疾患）に MRI は有用！？

当院では膝の痛みに対してレントゲンだけでなく、MRI で評価することを勧めています。今回はレントゲンとMRI の特徴を紹介します。

■変形性膝関節症の進行度を探るレントゲン検査

ひざの痛みがあり受診された患者さんで、問診や診察から変形性膝関節症が疑われるときは、まずはレントゲン検査を行います。骨の形状を評価することに優れており、骨や関節がどれくらい変形しているかが読み取れます。変形性膝関節症にはレントゲン写真から進行具合を診断する指標があり、関節の隙間の広さや骨の形によって、正常なひざから末期のひざまでを 0～4 までのグレードに分類することができます。グレード 2 以上を変形性膝関節症と診断します。

■レントゲンではわからない軟骨や靱帯などを評価できる MRI

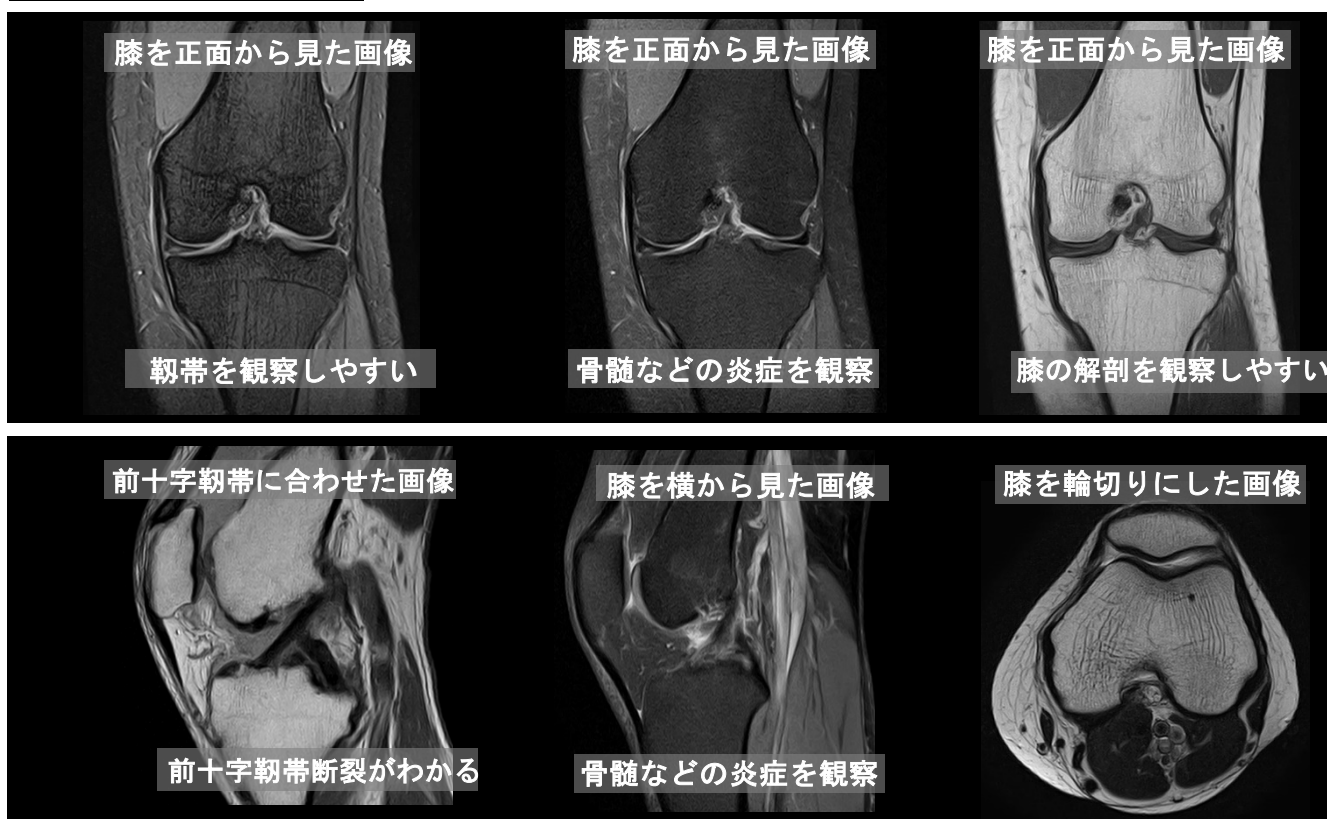
レントゲン検査で骨の形状が評価できますが、骨の形状だけでは隠れた痛みの原因がわからないこともあります。ひざ関節は軟骨や靱帯、骨の中の変化などレントゲンでは描出できない部分が痛みの原因になっていることが少なくありません。そんな隠れた原因を探るために行う検査が MRI です。MRI では軟骨そのものが描出され、半月板や靱帯も損傷、もしくは断裂していないかがわかります。骨においては炎症や壊死といった内部の状態まで評価できます。

★院長よりメッセージ

レントゲンではさほど異常がないのに、強い痛みを有するケースもあります。その場合は **MRI で評価することが大切**です。多くは半月板に損傷を認めたり、骨壊死など骨の内部に原因があります。また、当院で力を入れている**再生医療の治療効果の判断にも MRI は有効**です。**ひざドックを利用して、ご自分のひざの状態をしっかりと確認することは予防にも繋がりますのでお勧めします♪**

ひざの MRI 検査について

MRI 検査でどのようなことが分かるのかと、患者様から質問をいただくことがあります。この質問に対して、今回はひざの MRI 検査を例に挙げてご説明させていただきます。ひざの MRI 検査では、レントゲンでは描出できない半月板や靱帯、骨髄の状態などを詳しく見ることができます。当院のひざの撮影では基本的に 6 種類の画像を撮影しており、方向や色の見え方はすべてが同じではなく、観察したい部位や目的によって使い分けて撮影しています。



当院では、ひざの痛みがなくても、将来ひざの変形や痛みが心配な方へご提供している『**ひざドック**』というものがあります。ひざのレントゲン検査や MRI 検査、理学療法士による機能テストを行い、現在のひざの状態を知ること、悪化させないための対策を早期に行えるのがメリットです。

ご興味のある方は、ぜひお問い合わせ下さい。

放射線科 山崎

nagomi 会の取り組み

当院の脳ドックでは、オプションで認知症検査が受けられます!!

**2030年には高齢者の7人に1人が
認知症になる見込み**

脳萎縮評価支援システム VSRAD



詳しくはこちら